

金城学院大短大 ○佐藤 貞子
岩瀬 ひろ
益田貴美子

1. 私共は被服構成学の立場から、金城学院大学の女子学生の体型を把握する目的で、身体計測を行ない、その計測値を用い、主として体幹部の体型について考察を行なった。

2. 被検者は、1967年6月に金城学院大学短期大学部に在籍する健康な女子学生19歳—64名、20歳—47名である。計測項目は、身長・頸椎高・肩峰高・胴高・胸囲・胸囲・腰囲・肩峰幅・胸部・胴部・腰部の横径並びに矢状径の14項目である。これ等の実測値から、「胸囲—胸囲」・「腰囲—胸囲」・「肩峰幅—胴部横径」・「胸部横径—胴部横径」・「腰部横径—胴部横径」・胸囲/身長・頸椎高/身長・肩峰高/身長・胴高/身長・胸部矢状径/横径・胴部矢状径/横径・腰部矢状径/横径の12項目を算出した。これ等を用いて主として1961年度計測の同大学における成績と比較してみた。

3. 主な成果は次のようである。

(1) 今回の19歳成績と20歳成績とを比較すると、20歳の方が殆んどの項目で優れており、且つ胴のくびれ方が幾分大きい。この事は7年前における私共の成績と一致している。

(2) 1961年度の私共の成績と比較すると、今回の成績の方が身長・肩峰高・胴高共にやや優位、胸部はやや扁平、胴のくびれ方が小という体型となっている。